肝臓腫瘍のある高齢犬に フアイア抽出「糖鎖TPG-1」を与えた一例

症例提供	上條 圭司先生	ゼファー動物病院

症例について

初診時年齢12歳、去勢済みオスのシーズーです。2021/4/1肝臓に腫瘤を確認し、4/15摘出手術の予定でしたが、飼い主様のご都合でキャンセルとなりました。同年7/2、精査のため二次診療センターを受診。CT検査により肝臓の腫瘤が（後大）静脈を圧迫し、循環不全に陥っていることがわかりました。また供血犬とのクロスマッチが適合せず、総合的判断で手術不適としました。

経過と結果

打つ手無く7/21からフアイア糖鎖TPG-1を開始しました。
8/21に腹腔内出血を起こし血液検査を実施、肝数値が振り切っておりましたが対症療法のみで回復しました。その後は数か月おきに検査を実施しましたが、肝数値は一時的に悪化するもそのたびに回復し、維持しておりました。また、腹腔内出血で倒れた8月に9.2まで上昇したCRPは、腫瘍があるにも関わらず一旦0に落ち着きました。2022/6/13に亡くなりましたが、余命半年と判断していたところを一年以上生存しました。貧血が進む中でも亡くなる少し前まで元気も食欲も維持できました。

考察と感想

今回の症例に関しては、フアイア糖鎖TPG-1の効果があったと思います。何も打つ手がない子、手術を希望されない方に、勧めていきたいです。

2020年12月	左上顎犬歯周囲の歯肉に腫脹
2021年4月	口腔内出血、鼻汁、くしゃみ
	左上顎の腫瘤の細胞診実施
	病理検査より扁平上皮がんと診断
5月8日	腫瘍部分は糜爛を呈し、左鼻梁部にも痂皮・脱毛あり
	血液検査に異常所見なし
	トセラニブ・ピロキシカムのメトロノミック療法、
	ミソプロストール、フアイア糖鎖TPG-1開始
5月26日	フアイア糖鎖TPG-1飲みきり
6月12日	食欲低下、体重減少。フアイア糖鎖TPG-1処方
7月4日	食欲激減、抗がん剤の内服を休止。
7月31日	内服薬は全て停止、
	フアイア糖鎖TPG-1のみ継続し食欲が回復
2022年1月24日	永眠

		1ヶ月目	2ヶ月目	4ヶ月目	6ヶ月目	8ヶ月目
	7月8日	8月21日	9月25日	11月6日	翌1月24日	4月27日
ALT	279	>1000	253	291	>1000	***
AST	81	>1000	60	97	>1000	310
ALP	147	428	147	161	248	369
CRP		9.2	1.4	0.00	9.5	

7月21日
フアイア抽出「糖鎖TPG-1」の投与を開始

JVSH 日本獣医フアイア研究会 Japanese Veterinarian Society Of Huaier